

第41回日本死の臨床研究会の記録

大会長講演

1. 私が、見て、感じて、考えたこと 嘉藤 茂
2. 私を育ててくれたことーこれまでを振り返って 石川千夏

特別講演

1. いのちとの向き合いかた 袴田俊英
2. バーンアウトの肯定的考察 久保真人

主題講演 I

1. ケアする私の成り立ちー死の臨床との出会い、その魅力 柏木哲夫
2. ケアする私の成り立ちー私のケア観が育まれたプロセス 季羽倭文字
3. ケアする私の成り立ちー健全な自己肯定感をもつために 石垣靖子

主題講演 II

1. ケアする私を開示するー私にとって「真の援助」とは 山崎章郎
2. ケアする私を開示するー全人的人間理解の軌跡 山形謙二
3. ケアする私を開示するーチームワークを育み・高める 田村恵子

講演

1. 第2次ターミナル・ケアー麻酔科出身の緩和医療医としての歩みから 山室 誠
2. 日本人の死生観にふさわしいケアとは カール・ベッカー
3. ケアする人のグリーフケアー燃え尽きないために 広瀬寛子
4. 話し合える現場になるためにーケアにおける倫理的問題をめぐって 濱口恵子
5. 生活者としての患者に寄り添ってーMSWの立ち位置と役割 正司明美
6. 聴くための感性と技術を磨く 倉持雅代

セミナー

1. 最後まで目一杯生きる 萬田緑平
2. チーム内の信念対立にどう向き合うか 岡本拓也
3. がんになった親とその子どもへのサポートの実際 大沢かおり
4. ホスピスボランティア20年の実践 寺永守男
5. 「心に聴くとは」ースピリチュアルケアの心得となる寄り添うために 沼野尚美
6. 生と死とー揺れる日本人の意識 滝野隆浩
7. 地域が病院・家が病室・それを支える訪問看護ー在宅で「自分らしく生きる」を支える看護の本質 原田典子
8. 死の臨床ーアカデミック漫談で思いっきり笑って気分転換 人星亭喜楽駄朗

シンポジウム1 ケアする私を客観視するために

座長コメント 林 章敏・久山幸恵

1. 精神科医の立場から 水保健一
2. 二重の主観を通してチームでケアを語らうための内省ー緩和ケア認定看護師の立場から 柏谷優子
3. 精神看護専門看護師の立場から 小川弘美
4. 緩和ケア医の立場から 岸本寛史

シンポジウム2 地域で支え、地域で看取る

座長コメント 星野 彰・高橋美保

1. 地域を耕し、育む活動を通して
2. 「住み慣れた場所で、最期まで」を叶えるために
3. 十人十色の夢プラン
4. 一人十色の死生観

秋山正子
黒田美智子
大石春美
太田宣承

シンポジウム3 緩和ケア病棟から在宅へケアの場の設定変更で見てきたもの

座長コメント 中山康子・小枝淳一

1. MSWの立場から
2. 看護師の立場から
3. 在宅医療は想像以上に〇〇！－医師の立場から
4. 医師の立場から

下倉賢士
蛭田みどり
家田秀明
山岡憲夫

シンポジウム4 ケアにおける限界の認識をめぐって

座長コメント 橋本 誠・日浦あつ子

1. 治療契約の視点からケアを再考する
2. ケアの場に起因する限界とその対応について
3. 個の限界・職種の限界と、そのグレーゾーンをめぐって
4. ケアする人の限界とスピリチュアルケアーチャプレンの立場から

三木浩司
小野芳子
安保博文
藤井理恵

シンポジウム5 知って下さい、用いて下さいMSW

座長コメント 玉井照枝・橋 直子

1. ホームホスピスの現場から
2. 総合病院の現場から
3. プライマリ・ケアの立場から
4. がん専門病院の現場から

塩田剛士
関根知嘉子
横山幸生
福地智巴

シンポジウム6 「ケアの不全感」を掘り下げる

座長コメント 岡本信也・戸室真理子

1. 看護師の立場から
2. 不確かさの意識化とその肯定的転換－医師の立場からケアの不全感を考える
3. 看護師の立場から
4. 医師の立場から

浅野成実
丸山 寛
澤井美穂
中橋 恒

震災関連企画 継続的に支援すること－東日本大震災後から

座長コメント 末永和之・長澤昌子

1. 継続的に支援すること－東日本大震災後から
2. カフェデモンクの活動－荘厳浄土
3. 「お医者さんのお茶っこ」の取り組みについて
4. 「子ども夢ハウスおおつち」の取り組みについて

岩渕正之
金田諦應
田巻知宏
笹原留似子

企画委員会主催シンポジウム なぜ間もなくお迎えが来る人に時間とエネルギーを注ぐのですか？

座長コメント 小澤竹俊

1. 忘れられない悲しみを自らの支えとして
2. 命を完結させるプロセスの重要性
3. 死の臨床の範囲
4. 病気の子どもになぜ教育が必要なの？－涙も笑いも、力になる

久保田千代美
市橋亮一
高橋悦堂
副島賢和

国際交流広場 視点の有効性－生から死まで

座長コメント 藤井義博

1. 日本人の時間観の特徴

カール・ベッカー

市民公開講座 運命を引き受けて生きるということ

佐々木常夫

教育研修委員会主催 2017 年度第 2 回教育研修ワークショップ 死の臨床とコミュニケーション

馬場祥子

事例検討

1. 「最期ぐらい好きにしたい、でも娘のため諦める」
—終末期の意思決定支援に難渋した事例を通して 下里麻梨子
2. 宗教観を尊重した意思決定支援—鎮静中止を希望した妻への関わり 中村由美
3. 「痛〜い」と大声で叫び続けた自閉症・知的障害のある終末期がん患者へのケア 原 淳子
4. 長期在宅介護から入所介護となった超高齢男性の訪問診療—やっぱり家に帰りたい 湯川英機
5. 症状緩和の薬剤を拒否し、鎮静を希望した患者との関わりについての検討 鈴木 梢
6. 家族や医療者に怒りをぶつける若い乳がん患者—ケアの不全感を感じた 1 事例 林 良彦
7. 「何か死ぬるものを出してくれ—「死にたい」と繰り返す患者に私たちはどう関われば良いのか
蛇口真理子
8. 希望が叶わず生きる意味を見出せなかった終末期がん患者の 1 例 小林さゆり
9. 意思決定能力に疑問を感じた患者への関わり—レジリエンスの視点から 松本友梨子
10. ターミナル期の家族ケアの対象となった学童期の子どもの 1 例 田原一樹
11. 死をも覚悟して同種移植を受ける患者の子どもの養育に関する意思をいかに尊重するか
御牧由子
12. 統合失調症で外陰がんを発症し自壊創を抱えた被害意識が強かった事例 花野章子

特別事例検討

1. 医療者としてではなく、人として考えさせられた頭頸部腫瘍の 1 事例
—人生をまっとうする苦悩と現実の間で 吉武 淳
2. 「すべてが抜けて体がなくなってしまう」という不安と孤独のなか、
亡くなった思春期男児に必要なこと 佐藤博美

原著

1. がん患者の家族の予期悲嘆に対する緩和ケア病棟における看護支援の構造 新藤さえ、他
2. 緩和ケア病棟入院患者の大切に思う領域と主観的 QOL—SEIQoL_DW を用いて— 坂下美彦、他
3. ホスピス緩和ケア領域における音楽療法の実態調査 北川美歩、他

調査報告

1. 特別養護老人ホームにおける看護職を対象とした看取りの教育プログラムの開発 橋本美香、他
2. 自分と家族への臓器移植に対する大学生の考え方と臓器提供に関する家族間の意思表示の有無と
関連要員 内村 菜、他